

ハイデルベルク信仰問答より

問 88 人間の真の悔改めと回心には、いくつの要素がありますか。

答え 二つの要素があります。古い自分に死ぬことと、新しい人に生まれ変わることであります。

救われた人の「聖霊による新しい生活」の中身を学び始めています。本問答では「悔改め」と「回心」という二つの事柄が取り上げられていますが、これらはまさしく聖霊によってもたらされるものです。両者はコインの表と裏のような関係にあり、時間的な差異もほとんどありません。悔改めが救いの消極的な側面であるのに対し、回心は積極的な側面と言えるでしょう。

「悔改め」という言葉は原語では「μετανοέω／メタノエオー」という動詞で、「人がその意志を変えること」「過去の罪への憎悪とともに全く向きを変えること」などの意味を持ちます。新約聖書では、バプテスマのヨハネがヨルダン川で洗礼を授けていたとき民衆に向けて叫んでいた箇所です（マタイ 3:2, 8, 11）。悔改めは人生で一回的に起こるべき出来事、神に対する全き方向転換です。自分の心の思いも行ないも神の御心からかけ離れていたことを知ったところに生じる深い悲しみが伴います。これは、人が自らする反省や後悔とは違い、神が賜物として与えてくださる心で、いつまでもくよくよと罪の意識に苛まれ続けるものでもありません。赦しによって得られる感謝と喜びゆえの解放感に溢れたものです。

答えのところでは、「古い自分に死ぬこと」と言い換えられています。これは元々の自分が消えてなくなってしまうというほどの強烈なインパクトを持つ言葉で、神に背を向けた自分はもはや存在しないことを表します。そのような決定的な方向転換が「悔改め」です。

私たちは、洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかる者となりました。それは、キリストが父の栄光によって死者の中から復活させられたように、私たちも新しい命に生きるためです。私たちがキリストの死と同じ状態になったとすれば、復活についても同じ状態になるでしょう。私たちの内の古い人がキリストと共に十字架につけられたのは、罪の体が無力にされて、私たちがもはや罪の奴隷にならないためであるということを、私たちは知っています。（ローマ 6:4-6）

次に「回心」ですが、一般的に使われる「改心」とはニュアンスが違います。ただ心を改めるということではなく、新しい心を^{めぐ}回らせることを意味し、神に喜ばれる生き方へと邁進することです。そこには、罪の告白、隣人への可能な限りの賠償といった具体的な業が伴います。そして、この認識は残りの生涯を通して深められていき、償っていなかった罪を一つひとつ解決へと導いていきます。気づきが与えられ、何度も悔い改め、罪を告白し、謝罪し、償うところには、爽やかな信仰者の感覚があります。答えの中では「新しい人に生まれ変わること」と言い換えられています。

だから、誰でもキリストにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去り、まさに新しいものが生じたのです。(Ⅱコリント 5:17)

新しい自分に生まれ変わったとき、人はかつて罪によって失っていたものを取り戻していくようになるでしょう。それは、本当の自分に甦ることであり、新しいいのちの目によってしか見ることのできないものが見えてくる世界と出会います。かつて「壊れている」ことにすら気づかなかったものに気づき、修復された状態を切望するようになるのです。なぜなら、神の国にあってはすべてが本来あるべき状態が取り戻されているからです。地上にあって、その状態を見ていく人生、それが「新しく造られた者」の道です。